

第10回 みやぎ・やまがた
地域を超えてチャレンジする女性の交流会
分科会交流まとめ

①コーディネーター：伊藤真知子

②参加者数（コーディネーター含む）：9名（宮城2名、山形4名、福島3名）

③テーマ（グループ名）：分科会交流③地域コミュニティの女性リーダーを増やそう

④ディスカッション内容：

- ・コーディネーターから、もっとも身近な地域で女性リーダーが少ないと問題提起を行い（自治会長は山形県1.1%、宮城県4.5%、福島県2.6%、平成26年）、話し合った。
- ・笑顔であいさつして、種まきを欠かさないことが大切。相手の意見を否定せず、いったんは飲み込んで、「こういう考え方もあるのでは」と提案していくとよい。
- ・東北の女性は、自己肯定感が低い。内に秘めた思いをそのままにせず、オープンにコミュニケーションしていくとよい。認め合い、育てていくという観点も大切。
- ・「でしゃばり」「控えめに」と言われることを恐れずに、自発的にものごとを進めていこう。
- ・女性は前に出ないほうがよいという文化を時間がかかっても、変えていこう。遠慮することが他者の迷惑になるということもある。
- ・メディアを活用して発信するとよい（例：置賜のコミュニティ FM で、二市二町の地域おこし協力隊の活動情報）。
- ・地域おこし協力隊として活動、女子会を開くには、ちょっとしたお茶会、もちよりの会などから始めるとよい（等、アドバイス多数）。
- ・サポートしてくれる仲間をまわりに増やすこと。
- ・チャンスが来たら、断らずに引き受けよう。実力はあとからついてくる。
- ・「女性リーダー」とは特別な人でなく、自発的に行動していく人、交替でやってもいい。
- ・一人ひとりが発信して、行動し、リーダーになっていこう。